

2023年度 第3回九大本番レベル模試(経|経工) 国語 採点基準

☆二・三の現代文の配点は、「内容点」(ABC・・・)と「構造点」(XYZ・・・)で構成されます。また、内容点は各条件内に要素(①②③・・・)が3つ以上あり、得点がある場合、満点の範囲内で要素点が1点プラスされます。

一 (評論) 採点基準 (合計 60点)

問1 11点

(模範解答例)

A①〇1点

A②〇1点

「正義の味方」という自己陶醉と共に

悪者を攻撃するのが正義の徴という風潮があり、

B〇2点

「正義」の名分は暴力正当化の根拠になり、

C〇2点

自己陶醉が心のリミッターを外させて、

〈C2点〉

X〈分析〉ABCのうち2種以上に〇↓+1点

D①〇1点

D②〇2点

多数派の正義の味方が

少数派の悪者を徹底攻撃する構図を作り出すから、

〈D3点〉

Y〈総合〉Dに〇↓+1点

(内容【9点】+構造【2点】=8点)

【構造点】

☆Xは、傍線部の理由説明をすべく、Aの風潮に含まれる、B「正義」と、C「自己陶醉」の〈矛盾〉しない二条件に〈分析〓分けること〉する構造への評価である。ここでは〈Aの要素、条件B、条件C〉の内の二種二つ以上があればこの構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X〈分析〓分けること〉 〈Aの要素、B、C〉の内の「二種二つ以上」〇1点

☆Yは、B、CをDに〈総合〓まとめること〉する構造への評価である。ここではDの要素が一つ以上あればこの構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

Y〈総合〓まとめること〉 Dの要素 〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X・Y(各1点)は、右に示した要素を組み合わせた、また要素の意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A『正義の味方』という自己陶醉と共に悪者を攻撃するのが正義の徴という風潮があり、

〈2点〉
※傍線部の理由説明をするための、「風潮」の条件(前提条件)。

①『正義の味方』という自己陶醉と共に「の要素」(1点)

○『正義の味方』という自己陶醉とナルシズムと共に「『正義の味方』だという自己陶醉に加えて」などでも可。

✕『正義の味方』という自己陶醉のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

②「悪者を攻撃するのが正義の徴という風潮があり、」の要素。(1点)

○「悪い者を攻撃するのが正義の証しという風潮があり」「悪者を排撃するのが正義の徴という潮流があり」などでも可。

✖「悪者を攻撃するのが正義の徴という風潮」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

B『正義』の名分は暴力正当化の根拠になり、」(2点)

※傍線部の理由説明をすべく、Aを説明してゆく「正義」の条件。

○『正義』の大義名分は暴力を正当化する根拠になり、『正義』の錦の御旗は暴力正当化のための理由となり、」などでも可。

✖『正義』の名分は暴力正当化の根拠」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

C「自己陶酔が心のリミッターを外させて、」(2点)

※傍線部の理由説明をすべく、Aを説明してゆく、Bとは〈矛盾〉しない「自己陶酔」の条件。

○「自己陶酔が心の中のリミッターを解除して、」「自己陶酔が心の中の制限装置を外させて、」などでも可。

✖「自己陶酔が心のリミッターを外させる」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

D「多数派の正義の味方が少数派の悪者を徹底攻撃する構図を作り出すから。」(3点)

※B、Cをまとめて結論づける条件。

①「多数派の正義の味方が」の要素。(1点)

○「多数派を占める正義の味方が」「多数派であることも多い正義の味方が」などでも可。

✖「多数派の正義の味方」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

②「少数派の悪者を徹底攻撃する構図を作り出すから。」の要素。(2点)

○「少数派に追いやられた悪者を徹底的に攻撃する仕組みを作り出すから。」「悪者を徹底攻撃する要因となるから。」などでも可。

✖「(少数派の)悪者を徹底攻撃する」のニュアンスの成分が入っていないければ✖

問2 10点

(模範解答例)

A○1点

倫理学は、善と悪の区分を事とするのだが、(A1点)

B○2点

区別するのは善を価値的に優位に置くからであり、(B2点)

C○2点

その結果両者の間における暴力性と攻撃性をもたらすという意味で、(C2点)

X(分析)ABCのうち2つ以上に○↓+1点

D①○1点

D②○2点

暴力性を正当化して、強い者に奉仕するという宿命を免れられないものである。(D3点)

Y(総合)↓Dに○↓+1点

(内容)【8点】+構造【2点】=10点

【構造点】

☆Xは傍線部「倫理学」を説明すべく、その本分であるA「善悪の区別」を、B、Cの〈因果関係〉をなす二条件に〈分析〓分けること〉として説明して行く構造への評価である。ここでは、〈A、B、C〉の内の二種二つ以上があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。
X〈分析〓分けること〉 〈A、B、C〉の内の二種二つ以上 〇1点

☆Yは、B、CをDに〈総合〓まとめること〉する構造への評価である。ここでは条件Dの要素があればこの構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

Y〈総合〓まとめること〉 Dの要素 〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X・Y（各1点）は、右に示した、条件を組み合わせた、また要素の意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A 「倫理学は、善と悪の区分を事とするのだが、」〈1点〉

※傍線部「倫理学」を説明すべく、倫理学の本分「善悪の区別」を説明していく条件。

○「倫理学は、善悪の区分に専心するものだが、」「倫理学は、善と悪の区別を仕事とするのだが、」などでも可。
✕「倫理学は、善と悪の区分を（事と）する」のニュアンスの成分が入っていないと✕。

B 「区別するのは善を価値的に優位に置くからであり、」〈2点〉

※傍線部を説明すべく、Aを〈因果関係〉で説明して行く〈因〉の条件。

○「区別するのは善を優位の価値に置くからであり、」「識別するのは善を価値的に優位とみなしているからであり、」などでも可。

✕「区別するのは善を価値的に優位に置くから」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

C 「その結果両者の間における暴力性と攻撃性をもたらすという意味で、」〈2点〉

※ 傍線部を説明すべく、Aを〈因果関係〉で説明して行く〈果〉の条件。

○「結果的に善悪の間に暴力性と攻撃性を引き起こすという意味で、」「両者（〓善と悪）間における暴力性と攻撃性をもたらすことになり、」などでも可。

✕「（その結果）両者（〓善と悪）の間に暴力性と攻撃性をもたらす」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

D 「暴力性を正当化して、強い者に奉仕するという宿命を免れられないものである。」〈3点〉

① 「暴力性を正当化して、」の要素。（1点）

○「暴力性を正当化して、」「暴力性の正当化の道具として、」などでも可。

✕「暴力性の正当化」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

② 「強い者に奉仕するという宿命を免れられないものである。」の要素。（2点）

○「強い者に与するという宿命から逃れられないものである。」「強者に肩入れするという宿命を刻印されているものである。」などでも可。

✕「強い者に奉仕する宿命を免れられない」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

(模範解答例)

A①〇2点

A②〇1点

正と邪には価値的な落差があり、それが力関係の流れに加重を加えて、〈A 3点〉

B①〇1点

B②〇1点

たとえばテロリストの憎悪を、正義の理念で踏みつづいたとしても、〈B 2点〉

C〇1点

さらなる憎悪を作り出し、〈C 1点〉

X〈逆説〉ABCの2種以上に〇↓+1点

D〇2点

結局、大きく深く黒い憎悪の流れを世界史の上に生み出してしまおうという点。〈D 2点〉

Y〈総合〉Dに〇↓+1点

(内容【8点】+構造【2点】=10点)

【構造点】

☆Xは、傍線部を説明すべく、前提条件のAを、「憎悪」に関する〈矛盾〉する二条件B、Cに引き裂いて説明していく〈逆説||矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは〈Aの要素、Bの要素、C〉内の二種二つ以上があればこの構造の骨組みが成立している」とみなして1点加点。

X〈逆説||矛盾を含むこと〉 〈Aの要素、Bの要素、C〉内の二種二つ以上 〇1点

☆Yは、B、CをDに〈総合||まとめること〉する構造への評価である。ここでは条件Dがあればこの構造の骨組みが成立している」とみなして1点加点。

Y〈総合||まとめること〉 Dの要素 〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点(の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X・Y(各1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A 「正と邪には価値的な落差があり、それが力関係の流れに加重を加えて、」〈3点〉

※傍線部を説明するための話題の条件。

① 「正と邪には価値的な落差があり、」の要素。(2点)

- 「正と邪には価値的な序列があり、」「正邪には価値的な傾斜があり、」などでも可。
- ✕ 「正と邪には価値的な落差がある」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

② 「それが力関係の流れに加重を加えて、」の要素。(1点)

- 「それが力関係の傾きに加重を加えて、」「それが力関係の流れを増大させて、」などでも可。
- ✕ 「力関係の流れに加重を加える」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

B 「たとえばテロリストの憎悪を正義の理念で踏みつづいたとしても、」〈2点〉

※傍線部を説明すべく、Aを説明して行く一方の条件。

① 「たとえばテロリストの憎悪を」の要素。(1点)

- ✕ 「テロリスト(の憎悪)を」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

② 「正義の理念で踏みつぶしたとしても」の要素。(1点)

○ 「正義の理念で破壊したとしても」、「正義の名において殺戮したとしても」、「などでも可。

✖ 「正義の理念で踏みつぶす」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

C 「さらなる憎悪を作り出し」〈1点〉

※傍線部を説明すべく、Aを説明して行く、Bとは〈矛盾〉する他方の条件。

○ 「憎悪を増幅してしまい」「憎悪の拡大をもたらし」、「などでも可。

✖ 「憎悪の拡大」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

D 「結局、大きく深く黒い憎悪の流れを世界史の上に生み出してしまうということ」〈2点〉

※B、Cをまとめて結論づける条件。

○ 「結果的に、大きく深く強く黒い憎悪の流れを世界史の上に作り出してしまうこと。」「つまりは、途方もなく巨大で深刻な憎悪の流れを世界にもたらしてしまうということ。」などでも可。

✖ 「大きくor深くor黒い憎悪の流れ」「世界(史の上)に生み出してしまう」のニュアンスの二成分が入っていないければ✖。

問4 9点

(模範解答例)

A①〇2点

A②〇2点

功利主義の中心原理は最大幸福であり、全体の善の最大化のために、ある行為を選択した場合、〈A 4点〉

B〇1点

誰かの犠牲が不可避だとしても、〈B 1点〉

C〇1点

その行為は正しいとするのが〈C 1点〉

X 〈逆説〉 ABCの2種以上に〇↓+1点

D〇1点

「犠牲の論理」「犠牲則」である。〈D 1点〉

Y 〈総合〉 Dに〇↓+1点

(内容【7点】+構造【2点】)〓9点

【構造点】

☆ Xは、傍線部を説明すべく、A「功利主義の中心原理」の条件を押さえた上で、それが含み持つ〈矛盾〉する二条件B、Cに引き裂いて説明して行く〈逆説〓矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、〈条件Aの要素、条件B、条件C〉の内の二種二つ以上があればこの構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

X 〈分析〓分けること〉 〈A、B、C〉の内の二つ以上 〇1点

・ Yは、B、CをDにまとめて〈総合〓まとめること〉する構造への評価である。ここでは条件Dがあればこの構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

Y 〈総合〓まとめること〉 Dの要素 〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X・Y(各1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A 「功利主義の中心原理は最大幸福であり、全体の善の最大化のために、ある行為を選択した場合、」〈4点〉
※傍線部を説明すべく、「功利主義の中心原理」を説明していく前提条件。

① 「功利主義の中心原理は最大幸福であり、」の要素。(2点)

○ 「最大幸福こそが功利主義の中心原理であり、」「功利主義においては最大幸福こそが核心の原理であり、」などでも可。

× 「功利主義の中心原理は最大幸福」のニュアンスの成分が入っていないならば×。

② 「全体の善の最大化のために、ある行為を選択した場合、」の要素。(2点)

○ 「全体善を最大化するために、特定の行為を選んだ場合、」「全体の善の最大化を図るために、一定の行為を選定した場合、」などでも可。

× 「全体の善の最大化のある行為の選択」のニュアンスの成分が入っていないならば×。

B 「誰かの犠牲が不可避だとしても、」〈1点〉

※傍線部を説明すべく、Aから引き出される一方の条件。

○ 「誰かを犠牲にせざるをえないとしても、」「誰かが犠牲になることが避けられないとしても、」などでも可。

× 「誰かの犠牲が不可避」のニュアンスの成分が入っていないならば×。

C 「その行為は正しいとするのが」〈1点〉

※傍線部を説明すべく、Aから引き出される、Bとは〈矛盾〉する他方の条件。

○ 「その行為は正当とみなすのが」「行為の正しさを疑わないのが」などでも可。

× 「(その) 行為は正しい」のニュアンスの成分が入っていないならば×。

D 『犠牲の論理』『犠牲則』である。」「〈1点〉

※B、Cをまとめて結論づける条件。

○ 『犠牲の論理』あるいは『犠牲則』である。」「『犠牲の論理』である。」「などでも可。

× 『犠牲の論理』or『犠牲則』のニュアンスの成分が入っていないならば×。

(模範解答例)

A①〇1点 A②〇2点

功利性は ある目的の実現に資し、合理的な行為の脈絡を形成するため 〈A3点〉

B〇1点

絶望が破壊的になるのを止めうるが 〈B1点〉

C〇2点

ある一部を切り捨てる「犠牲則」を隠し持つており 〈C2点〉

X〈逆説〉ABCのうち2種以上に〇↓+1点

D〇2点

結局は、イジメの肯定や格差の是認をもたらすことになる。 〈D2点〉

Y〈総合〉Dに〇↓+1点 (7点)

(内容【8点】+構造【2点】=10点)

【構造点】

☆Xは、傍線部の「功利性」の概念である条件Aから結果する内容を、傍線部後の〈確かに〜しかし〉の譲歩―逆接構文で提示されている〈矛盾〉する二条件B、Cに引き裂いて説明して行く〈逆説=矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは〈Aの要素、条件B、条件C〉の内の二種二つ以上があれば、この構造の骨組みが成立しているものとみなして1点加算。

X〈逆説=矛盾を含むこと〉 〈Aの要素、B、C〉の内の二種二つ以上 〇1点

☆YはB、CをDに〈総合=まとめること〉として結論づける構造への評価である。ここでは条件Dがあれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

Y〈総合=まとめること〉 D 〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X・Y(各1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A「功利性はある目的の実現に資し、合理的な行為の脈絡を形成するため」〈3点〉

※傍線部の「功利性」のもたらすものを説明するための、前提条件としての「功利性」の定義。

①「功利性は」の要素。(1点)

✕「功利性」の成分が入っていないければ✕。

②「ある目的の実現に資し、合理的な行為の脈絡を形成するため」の要素。(2点)

○「一定の目的の実現に役立ち、合理的な行為の筋道を示すため」、「特定の目的の実現に寄与し、合理的な行為の経路を形作るため、」などでも可。

✕「或る目的の実現に資する」「合理的な行為の脈絡を形成する」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

B「絶望が破壊的になるのを止めうるが、」〈1点〉

※傍線部の「功利性」のもたらすものを説明すべく、Aを説明していく一方の条件。

○「絶望が破壊的なものになるのを止めうるが」、「絶望の破壊性への傾斜を阻止しうるが、」などでも可。

✕「絶望が破壊的になるのを止める」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

C 「ある一部を切り捨てる『犠牲則』を隠し持っており、」〈2点

※傍線部の「功利性」のもたらすものを説明すべく、Aを説明していく、Bとは〈矛盾〉する他方の条件。

○「一定部分を切除する犠牲の論理を潜ませており、」「特定部分を排除する『犠牲則』を密かに有しており、」などでも可。

※「或る一部を切り捨てる『犠牲則』を隠し持つ」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

D 「結局は、イジメの肯定や格差の是認をもたらすことになる。」〈2点

※B、Cをまとめて結論づける条件。

○「つまり、いじめを肯定したり、格差是認につながるようになる。」「要するに、いじめ肯定につながったり、格差を認めることになってしまふ。」などでも可。

※「いじめの肯定」「格差の是認」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

問6 10点

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

インディアンの処刑の場に入り込んだジムが、 悪人の長官に、〈A 2点

B○2点

一人射殺すれば残りの一九人を助けてやるが、〈B 2点

C○2点

拒めば全員を射殺すると言われた場合、〈C 2点

X〈逆説〉ABCの2種以上に○↓+1点

D①○1点

D②○1点

犠牲の論理による正しさとは、彼が無実のインディアンを射殺することだということ。〈D 2点

Y〈総合〉Dに○↓+1点

(内容【8点】+構造【2点】=10点)

【構造点】

☆Xは傍線部を説明すべく、ジムのおかれた「場」の条件であるAにおいて、長官が命じる〈矛盾〉を含む命令の二条件B、Cに引き裂いて説明して行く、〈逆説||矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは〈条件Aの要素、条件B、条件C〉の内の二種二つ以上があれば、この構造の骨組みが成立して1点加算。

X〈逆説||矛盾を含むこと〉 〈Aの要素、B、C〉の内の二種二つ以上 ○1点

☆YはB、CをDに〈総合||まとめること〉として結論づける構造への評価である。ここではDの要素があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

Y〈総合||まとめること〉 Dの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X・Y(各1点)は、右に示した要素を組み合わせる意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A 「インディアン」の処刑の場に入り込んだジムが、悪人の長官に、「へ2点

※傍線部を説明すべく、ジムのおかれた「場」を設定する条件。

① 「インディアン」の処刑の場に入り込んだジムが、「」の要素。(1点)

○ 「インディアン」の処刑場に足を踏み入れたジムが、「」ジムが、インディアン」の処刑の場に入り込んだ時、「」などでも可。

× 「ジムが、インディアン」の処刑の場に入り込む」の成分が入っていないければ×。

② 「悪人の長官に、「」の要素。(1点)

× 「悪人の長官」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

B 「一人射殺すれば残りの一九人を助けてやるが、「」へ2点

※傍線部を説明するための、Aにおける長官の命令の一方をなす条件。

○ 「一人銃殺すれば残った一九人は解放してやるが、「」一人撃ち殺せば残りの一九人の命は安泰だが、「」などでも可。

× 「一人射殺すれば残りの一九人を助けてやる」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

C 「拒めば全員を射殺すると言われた場合、「」へ2点

※傍線部を説明するための、Aにおける長官の命令の他方をなす、Bとは「矛盾」条件。

○ 「拒んだらみな殺しにすると言われた場合、「」拒否すれば全員を撃ち殺すと言われた場合、「

× 「拒めば全員射殺」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

D 「犠牲の論理による正しさとは、彼が無実のインディアンを射殺することだということ」と。「へ2点

※B、Cをまとめて結論づける条件。

① 「犠牲の論理による正しさとは、「」の要素。(1点)

○ 「犠牲の論理が命じる正しさとは、「」犠牲の論理に則った正しさとは、「」などでも可。

× 「犠牲の論理による正しさ」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「彼が無実のインディアンを射殺することだということ。「」の要素。(1点)

○ 「ジムが無実のインディアンを射殺することになること。「」彼が無実のインディアン」の射殺を実行することだということ。「」などでも可。

× 「彼が無実のインディアンを射殺する」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

□ 現代文（評論）採点基準（合計60点）

問1 4点×2＝8点

A 4点

（模範解答例）

A〇2点

B〇2点

追い詰められて どうすることもできない（4点）

◎ 採点のポイント

※A、Bの各要素に各2点を配布して要素があるかどうかで採点する。記述問題の採点基準は、この問題では適用しない。（4点）

A「追い詰められて」の要素。〈2点〉

※傍線部前「それ」の指示内容「絶滅」から引き出される要素。

- 「窮地に追いやられて」「進退窮まって」などでも可。
- ✕ 「追い詰められる」のニュアンスの成分がなければ✕。

B「どうすることもできない」の要素。〈2点〉

※傍線部後の「深刻さと苦痛に圧倒される」から引き出される要素。

- 「手の打ちようがない」「身動きが取れない」などでも可。
- ✕ 「どうすることもできない」のニュアンスの成分がなければ✕。

B 4点

（模範解答例）

A〇2点

B〇2点

絶望的な 暗黒世界（4点）

◎ 採点のポイント

※ A、Bの各要素に各2点を配布して要素があるかどうかで採点する。記述問題の採点基準は、この問題では適用しない。（4点）

A「絶望的な」の要素。〈2点〉

※傍線部前の同格表現というべき「人類滅亡や地球消滅」から引き出される要素。

- 「破滅的な」「救いようのない」などでも可。
- ✕ 「絶望的」のニュアンスの成分がなければ✕。

B 「暗黒世界」の要素。(2点)

※傍線部後の「ダークファンタジー」「ダークヒーロー」から引き出される要素。

○ 「闇の世界」「反理想世界」などでも可。

✕ 「暗黒世界」のニュアンスの成分がなければ✕。

問2 7点

(模範解答例)

A①○1点 A②○1点

現実世界の邪悪が 苦手な人もいるが、(A2点)

B①○1点 B②○1点

神よりも悪魔の種類の方が多く、 善行より犯罪の種類の方が圧倒的に多いように、 人間は本性内において、

B④○1点

暗黒的なものを求めているから。(B4点)

X (逆説) AとBに○↓+1点

(内容【6点】+構造【1点】=7点)

【構造点】

☆Xは、傍線部の理由を、人間の〈矛盾〉した性向である二条件A、Bに引き裂いて説明して行く〈逆説||矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、Aの要素とBの要素が、それぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X (逆説||矛盾を含むこと) Aの要素+Bの要素 ○1点

◎採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。また、80字を越えている場合は加点要素があっても✕0点。

A 「現実世界の邪悪が苦手な人もいるが、」(2点)

※傍線部の理由を説明するための一方の条件。

① 「現実世界の邪悪が」の要素。(1点)

○ 「現実世界のダークで、悪く、黒いものが、」リアルな世界の暗黒部分が、「などでも可。

✕ 「現実世界の(邪)悪」の成分が入っていないければ✕。

② 「苦手な人もいるが、」の要素。(1点)

○ 「お手上げの人もあるが、」嫌悪する向きもあるが、「などでも可
✕ 「苦手な人もいる」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

B 「神よりも悪魔の種類の方が多く、善行より犯罪の種類の方が圧倒的に多いように、人間は本性内において、暗黒的なものを求めているから。」(4点)

※傍線部の理由を説明するための、Aとは〈矛盾〉する他方の条件。

以下の4要素に分けて採点。満点(4点)内で、得点があれば要素点+1点。3要素以上があれば4点、2要素あれば3点、1要素であれば2点、要素が入っていないければ0点。

◎採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A 「進撃の巨人」は、得体の知れない巨人に人類が食われ、脅かされている世界の話だが、「〈3点〉

※傍線部の一方の理由説明をするための話題の条件。

以下の3要素に分けて採点。満点(3点)内で、得点があれば要素点+1点。要素以上であれば3点、1要素であれば2点、要素が入っていないければ0点。

①「進撃の巨人」は、「の要素。(1点)

※「進撃の巨人」の成分が入っていないければ✕。

②「得体の知れない巨人に人類が食われ、」の要素。(1点)

○「不気味な巨人に人間が食べられ、」「正体不明の巨人に人が食され、」などでも可。

※「得体の知れない巨人に人が食われる」の成分が入っていないければ✕。

③「脅かされている世界の話だが、」の要素。(1点)

○「脅迫されている世界の話だが、」「威嚇されている場のストーリーなのだが、」などでも可。

※「脅かされている世界の話」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

B 「自分の嫌いな人物が巨人に食われる想像をする『シャーン・フロイド』の効果や、」〈3点〉

※傍線部の一方の理由説明をすべく、Aを説明する片方の内容である『シャーン・フロイド』の効果」の条件。

以下の3要素に分けて採点。満点(3点)内で、得点があれば要素点+1点。要素以上であれば3点、1要素であれば2点、要素が入っていないければ0点。

①「自分の嫌いな人物が」の要素。(1点)

○「自分の好まない人物が」「自分にとって邪魔な人物が」などでも可。

※「自分の嫌いな人物」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

②「巨人に食われる想像をする」の要素。(1点)

○「巨人にむさぼられる想像をする」「巨人の餌になるのを空想する」などでも可。

※「巨人に食われる想像をする」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

③『シャーン・フロイド』の効果や、「の要素。(1点)

○『シャーン・フロイド』の効能や、「他人の不幸に感じる蜜という効果」や、「などでも可。

※『シャーン・フロイド』(他人の不幸に感じる蜜という)の効果」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

C 「気分が落ち込んでいる時にダークな筋書きに浸ること、死のトレーニングをし、心の健康を回復する効果を持つていたから。」〈4点〉

※傍線部の一方の理由説明をすべく、Aを説明する、Bとは〈矛盾〉しない「死のトレーニング」の内容であるもう片方の条件。

以下の4要素に分けて採点。満点(4点)内で、得点があれば要素点+1点。3要素以上があれば4点、2要素あれば3点、1要素であれば2点、要素が入っていないければ0点。

◎採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X・Y（各1点）は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A 『進撃の巨人』が人気を博したもう一つの秘密の理由は、「〈2点〉

※傍線部のもう一方の理由説明をするための話題の条件。

① 『進撃の巨人』が人気を博した」の要素。（1点）

○ 『進撃の巨人』が大人気となった』『進撃の巨人』が読者の心をつかんだ」などでも可。

× 『進撃の巨人』が人気を博した」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「もう一つの秘密の理由は、「の要素。（1点）

× 「もう一つの秘密の理由」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

B 「分かりやすい説明とはいうものの、どうしてもあまり共感されず、すぐには信用されないのだが、」〈3点〉

※傍線部のもう一つの理由説明をすべく、Aを説明する一方の条件。

以下の3要素に分けて採点。満点（3点）内で、得点があれば要素点+1点。要素以上であれば3点、1要素であれば2点、要素が入っていないければ0点。

① 「分かりやすい説明とはいうものの、」の要素。（1点）

○ 「分かりやすい説明ではあるが、」「平明な説明ではあるものの、」などでも可。

× 「分かりやすい説明」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「どうしてもあまり共感されず、」の要素。（1点）

○ 「さほど共感をえられず、」「芳しい同意を得られたとは言えず、」などでも可。

× 「あまり共感されれない」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③ 「すぐには信用されないのだが、」の要素。（1点）

○ 「簡単には信用を得られないのだが、」「即座に納得されることはないのだが、」などでも可。

× 「すぐには信用されない」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

C 「実は人間には『食べられる欲望』があるからである。」〈2点〉

※傍線部のもう一つの理由説明をすべく、Aを説明する、Bとは〈矛盾〉する他方の条件。

① 「実は人間には」の要素。（1点）

○ 「本当は人間には」「本来人間には」などでも可。

× 「（実は）人間には」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 『食べられる欲望』があるからである。」の要素。（1点）

○ 『食べられる欲望』が潜んでいるからである。』『食べられる欲望』が組み込まれているからである。」「
などでも可。

× 『食べられる欲望』がある」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

問4 2点×3＝6点

①＝(カ) ②＝(エ) ③＝(イ)

問5 5点

(模範解答例)

A○1点 B○2点 C○2点

人間が 食べられ 続けてきたこと。(5点)

◎ 採点のポイント

※A、B、Cに要素があるかどうかで採点する。記述問題の採点基準は、短字数のこの問題では適用しない。

※【構造点】もこの短字数のこの問題では適用しない。

A 「人間が」の要素。(1点)

※傍線部を説明するための「主体」の要素。

○ 「人類が」「人が」などでも可。

× 「人間」のニュアンスの成分がなければ×。

B 「食べられ」の要素。(2点)

※傍線部を説明すべく、Aを説明する、「受動」のニュアンスを含む一方の要素。

○ 「捕食され」「食され」などでも可。

× 「食べられる」のニュアンスの成分がなければ×。

C 「続けてきたこと」の要素。(2点)

※傍線部を説明すべく、Aを説明する、「継続」のニュアンスを含む他方の要素。

○ 「継続してきたこと」「止むことが無かったこと」などでも可。

× 「続けてきた」のニュアンスの成分がなければ×。

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

A③○1点

A④○1点

ヒト属の歴史の中で、

ホモ・サピエンスは捕食の恐怖に苛まされてきた一方で、

食人の慣習があったことも

A⑤○1点

A⑥○1点

分かつており、「食べる・食べられる」関係の中で、生き残ってきたのだが、

〈A 6点〉

B①○1点

B②○1点

B③○1点

B④○1点

それは互いに食べ合う

動物たちの間で、

支配と従属の関係ではなく、

力は同等ではないが

B⑤○1点

量的な差異しかないという、

〈B 5点〉

X〈分析〉AとBに○↓+1点

C○1点

その同じ秩序の中に存在してきたのだという点。〈C 1点〉

〈総合〉Cに○↓+1点

〔内容〕12点 + 構造〔2点〕 = 14点

【構造点】

☆Xは、傍線部を説明すべく、Aの「ホモ・サピエンス」と、Bの「動物」の〈矛盾〉しない二条件に〈分析〓分けること〉していき、構造への評価である。ここでは、条件A、条件Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X〈分析〓分けること〉 Aの要素+Bの要素 ○1点

☆Yは、A、BをCに〈総合〓まとめること〉する構造への評価である。ここでは条件Cがあればこの構造が暗黙裡に構想されているとみなして1点加点。

Y〈総合〓まとめること〉 Cの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X・Y(各1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A「ヒト属の歴史の中で、ホモ・サピエンスは捕食の恐怖に苛まされてきた一方で、食人の慣習があったことも分かつており、『食べる・食べられる』関係の中で、生き残ってきたのだが、」〈6点〉

※傍線部を説明するための「ホモ・サピエンス」の条件。

以下の6要素に分けて採点。満点(6点)内で、得点があれば要素点+1点。5要素以上があれば6点、4要素あれば5点、3要素であれば4点、2要素であれば3点、1要素であれば2点、要素が入っていないければ0点。

①「ヒト属の歴史の中で、」の要素。

○「ヒト属の歴史を考えるとみれば、」ヒトの歴史においては「

×「ヒト属の歴史」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

②「ホモ・サピエンスは」の要素。

×「ホモ・サピエンス」の成分が入っていないければ×。

③「捕食の恐怖に苛まされてきた一方で、」の要素。

○「捕食の恐怖に怯えていた一方で、」食べられる恐怖感に襲われる一方で、「などでも可。

✖「捕食の恐怖に苛まされる」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

④「食人の慣習があったことも分かっており、」の要素。

○「食人慣習があったことも知られており、」「カニバリズムの習性があったことも判明しており、」などでも可。

✖「食人の慣習があった」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

⑤『食べる食べられる』関係の中で、「」の要素。

○『食べる食べられる』関係にあって、『食べる食べられる』関係において、「」などでも可。

✖『食べる食べられる』関係」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

⑥「生き残ってきたのだが、」の要素。

○「生き抜いてきたのだが、」「生存を維持してきたのだが、」などでも可。

✖「生き残ってきた」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

B「それは互いに食べ合う動物たちの間で、支配と従属の関係ではなく、力は同等ではないが量的な差異しかないという、」へ5点

※傍線部を説明するための「動物」の条件。

以下の5要素に分けて採点。満点(5点)内で、得点があれば要素点+1点。4要素以上あれば5点、

3要素であれば4点、2要素であれば3点、1要素であれば2点、要素が入っていないければ0点。

①「それは互いに食べ合う」の要素。

○「それは相互に捕食し合う」「それは互いに捕食―被食の関係にある」などでも可。

✖「互いに食べ合う」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

②「動物たちの間で、」の要素。

✖「動物たちの間」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

③「支配と従属の関係ではなく、」の要素。

○「主人と奴隷の関係ではなく、」「支配と被支配の間柄ではなく、」などでも可。

✖「支配と従属の関係の否定」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

④「力は同等ではないが」の要素。

○「力の差はあるが」「力は同じとはいえないが」などでも可。

✖「力は同等ではない」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

⑤「量的な差異しかないという、」の要素。

○「量的な差異があるのみだという、」「量的な差異以外には何も無いという、」などでも可。

✖「量的な差異しかない」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

C「その同じ秩序の中に存在してきたのだということ。」へ1点

※A、Bをまとめて結論づける条件。

○「それと同じ仕組みの中に存在してきたのだということ。」「それと同じ構造の中に存在してきたのだということ。」「などでも可。

✖「同じ秩序の中に存在してきた」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。